

**【7. 選択領域(12時間):現代社会の諸課題を考える I】**

**講習内容** 今日、わたし達の生活を取り巻く環境は、さまざまな矛盾を抱えており、これからの時代を生きる生徒たちも、そうした社会のあり方と自らの生活のあり方について、トータルに理解する力を身につける必要に迫られています。本講習では、現代社会の暮らしにおける「法律」「経営」「経済」「情報」等の各分野について、それぞれが抱えている課題と問題の根源となる基本的事項を学ぶことを通して、今、生徒たちに伝えておかなければならないことの基本的理解を目指します。

講座	講座テーマ	内 容			受講対象	時間	担当者
		講座概要	到達目標	キーワード			
⑦-1	私法秩序維持のための視点	現代社会においては、市民社会の自由を謳歌する一方で、自由を濫用し、社会の信頼を裏切る事件も多く出現していることを踏まえ、現代市民社会における真の行動原理とは何かについて取り上げる。その際、近代私法の基本原理である、「法の下での平等」「私有財産尊重の原則」「私的自治の原則」、その修正原理である、「公共の福祉遵守の原則」「信義誠実の原則」「権利濫用禁止の法理」を再考し、さまざまな場面における利害調整を学びながら、現代の法的问题の解決に役立つ法的思考・法的スキルについて学習する。	様々な具体的事件・事例を実際に検討することによって、私法における基本原理の役割とともに、法の精神である正義と衡平の理念に基づいた利害調整の方法について理解を深める。さらに、今後の市民社会を生きていくうえでのあるべき行動原理を研修者とともに探求することによって、今後の人材育成のための教育の一助としていただく。	法の精神に基づく行動原理、利害調整の方法論	中・高等学校教諭(社会、商業、情報)	3	野口 大作
⑦-2	人口減少下における日本のマクロ経済的課題について考える	今後急速に進むと見込まれる人口減少や少子高齢化は、日本の経済社会の有り様にいかなる影響をもたらすであろうか。本講座ではまず、日本の将来推計人口の方法論について学び、中長期における人口推計値の実際を国際比較を踏まえて考察する。次いで、人口減少が日本のマクロ的な経済成長と経済構造に与えるインパクトについて、各種の先行研究や統計データに基づき議論する。楽観論でもなく悲観論でもない、中立的な立場から人口減少下の経済社会の望ましいあり方について考えてみたい。	人口推計に関する方法論について概略を理解し、日本の将来推計人口に関する予測値を国際比較を踏まえて明確に考察できる。人口減少と少子高齢化が日本の経済社会にもたらす影響について論点を明確にし、人口減少下における日本経済のあるべき姿について各自の考えをまとめることができる。	将来推計人口、人口減少と少子高齢化・日本経済への影響と対策	中・高等学校教諭(社会、商業、情報)	3	澤田 彰博
⑦-3	消費社会も光と影	現代社会の暮らしは、もっぱら企業が作り、運び、売っているモノを、われわれ消費者が選んで買う行為を通して営まれている。高度に発達した「消費社会」は、豊かで便利な生活をもたらしたが、他方では、深刻な地球環境問題にまでつながる危険性もはらんでいる。本講習では「食」を中心テーマとして「消費社会の光と影」を考える。	われわれが生活する現代社会の仕組み、社会の中で会社が担う役割、社会～会社～生活～自然の関わりについて理解を深め、諸問題に対処していくプログラムを提案する。	消費社会、消費者、企業の不祥事、地球環境、食糧危機	中・高等学校教諭(社会、商業、情報)	3	長尾 晃宏
⑦-4	情報化社会をめぐる諸課題	現在の情報社会の中で、「法と政治」「経営」「経済」などのいろいろな分野で「情報」が組み込まれて情報処理が行われている。特に情報が受信されている「インターネット」が社会基盤の一つになっているが、ここでは多くの問題が起こっている。本講習では、社会人としてインターネットでの諸問題について学び、その中のさまざまな矛盾や社会のあり方、自らの生活のあり方などについての利便性や危険性を理解し、その正しい対応方法などについて学ぶ。	社会人として、現代の情報社会の中の「法と政治」「経営」「経済」などの分野で、情報基盤の一つとしてのインターネットに関連した基本的な事項やそれらの諸課題・対策方法などの確認と理解を目指す。社会人としてのビジネスのトラブルやセキュリティ、犯罪および教育などの中で見え隠れする利便性や危険性などについて理解する。	「インターネット」 ・情報社会 ・個人情報と著作権 ・教育と有害情報 ・生活とビジネス ・コミュニケーション ・犯罪とセキュリティ	中・高等学校教諭(社会、商業、情報)	3	山崎 初夫